

保幼小中一貫教育だより ～豊かな自然と豊かな人材で豊かなこどもを育てる～



# 豊能の風

発行：豊能町教育委員会 第83号 R4. 12. 1

## 小中一貫教育で取り組む 「学ぶ喜び」と「しなやかな心」の育成 東能勢小中学校 公開授業研究会 開催

東能勢小中学校は、今年度、町の研究指定を受け、小・中学校の教職員と一緒に授業研究に取り組んでいます。その研究の一端として、11月25日（金）に、東能勢中学校校舎で公開授業研究会が開催されました。今回は、中学校籍の英語科教員による第6学年外国語科の授業が公開されました。



英語でのあいさつ・歌から始まるオールイングリッシュの授業

学習した表現を使い、いろいろな人に積極的に質問する子どもたち  
「What's your best memory?」  
「My best memory is …」



熱心に協議に参加する先生方（全体会）

授業終了後の全体会では、小・中学校の研究担当教員による研究報告と研究協議、そして、関西福祉大学教授の山口偉一先生からご講話いただきました。東能勢小中学校では、中期学部の5年生から教科担任制を導入し、校種を越えた乗り入れ授業を積極的に行っています。小学校と中学校の教職員と一緒に子どもたちに関わり、「授業」を考えることを通して、小中の連携が一層進んでいます。

## 15年間の「学び」と「育ち」をつなぐ一貫した教育の実現をめざして⑧ ～ 東能勢小中学校【中後期学部】 子どもたちが育つ「異学年交流」 ～

令和4年度より小中一貫教育がスタートして、早8ヵ月過ぎました。中学校校舎では、5年生から9年生までと一緒に学校生活を送っています。昼休みには、中学生と小学生と一緒にドッジボールをしたり、児童生徒会活動で花を植えたりなど、学年をこえて活動する場面が増えてきました。

9月15日（木）の7年理科の授業で、顕微鏡の使い方について7年生が5年生に教える場面がありました。中学生にとって何気なく使っている顕微鏡ですが、いざ小学生に伝えるとなると難しかったと思います。

授業後半には、小学生が実際に顕微鏡を使う実技テストがあり、中学生から教えてもらった操作手順を思い出しながら集中して取り組んでいました。今後、顕微鏡を使って観察するときに、中学生から教えてもらったことを思い出してほしいと思います。

また、11月14日（月）の7年総合的な学習の時間に、先日行った校外学習（阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター）で災害や防災・減災について学んだことを5・6年生に伝える発表会がありました。

7年生が5つのグループに分かれて各教室に待機し、5・6年生は班ごとにすべての発表を聞いて回るという流れでした。7年生はプレゼンテーションソフトを活用して、学習の成果を発表しました。少し緊張した様子でしたが、一生懸命5・6年生に向かって話をしていました。5・6年生も集中して聞いていたので、発表をしているうちに緊張がほぐれ、自分の言葉で話していた7年生の姿に頼もしさを感じました。

小中一貫教育では、「中期（5～7年）」がカギを握っていると言われています。中期生に校内でリーダーシップを発揮させる場面を設定し、小中一貫校ならではの取組を今後も重ねていきたいと思っています。



### 吉中生、地域に大貢献！ ～「中学生によるスマホ教室」開催～

11月5日（土）に西公民館で開催された「ふれあい作品展」に合わせて、地域の方が、吉川中学校の生徒からスマホの操作を学ぶ「中学生によるスマホ教室」が実施されました。

吉中生は“たんぼぼメールの登録方法”“カメラの使い方”“LINEの始め方”など、地域の方の質問に丁寧に答えました。参加された地域の方からは「年に何回か開催してほしい。」「地元の中学校の生徒だから聞きやすかった」といった喜びの声がかげられました。

参加した生徒は「地域の方に教えるのは楽しかった。」とふり返り、中学生にとっても、地域の方にとっても、大変有意義なイベントとなりました。

